

➡ 地球環境との共生

私たちバンダイナムコグループは地球環境に配慮した事業を推進することが、社会と企業の持続可能な発展の実現に欠かせないことを認識し、様々なステークホルダーとともに、地球環境との共生を目指します。

自社拠点における再生可能エネルギーへの切替

脱炭素化に向けて、グループ会社主要拠点において、再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを進めています。

バンダイナムコ未来研究所、バンダイ本社ビル、バンダイナムコアミューズメント本社ビル（住友不動産田町駅前ビル）、バンダイナムコスタジオ本社ビル（澁澤永代ビル）、(株) BANDAI SPIRITSのプラモデル生産工場であるバンダイホビーセンターなど、グループ各社拠点においては使用する電力の全量を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えており、オフィス業務で発生する二酸化炭素排出量を実質ゼロとしています。この取り組みにより年間4,000t-CO₂以上の二酸化炭素の排出を削減しています。



バンダイナムコ未来研究所

太陽光発電の導入

(株) BANDAI SPIRITSは、プラモデル生産工場であるバンダイホビーセンターの屋上約1,202m²に400枚のソーラーパネルを配した太陽光発電設備を導入、太陽光発電による電力自給に取り組んでいます。太陽光発電による年間の電力自給量は約26万kWh*となり、年間約130t-CO₂の二酸化炭素排出が削減できる見込みです。

* JIS 8907 に基づく太陽電池の発電量計算方法により算出



バンダイホビーセンター

環境に配慮した物流網の積極的な推進

バンダイナムコグループの物流を担当する(株)バンダイロジパルは商品を安全にお届けすることはもちろんのこと、エコドライブを全社で推進しています。またエコドライブに加え、グリーン経営認証取得や、低公害車の導入などの環境配慮にも積極的に取り組んでいます。



➡ 地球環境との共生

環境配慮製品の開発

(株)バンダイナムコアミューズメントは、2012年に国内向け業務用ゲームを対象に、「エコアミューズメント製品要求事項」を策定。ガイドラインに定められた「グリーン調達基準適合」「省電力」「省資源」などの7つの基準をもとに製品を評価し、一定レベルを満たすものを「エコアミューズメント製品」と認定しています。認定製品である「CLENA3」は全国の店舗の運営ノウハウをもとに景品運営やスタッフの負担軽減に配慮した工夫を凝らされているだけでなく、初代「クレナフレックス」に比べ、消費電力は約56%減と環境にも配慮された設計となっています。

また、トイホビー事業においては「サステナブル設計ハンドブック」を作成しました。環境配慮設計を分かりやすく伝えるため、実際の製品事例を多く掲載しながら、その製品における環境配慮設計の工夫を伝えています。また、その工夫によりどれだけ二酸化炭素排出量の削減を行うことができたか(自社内調査値)も記載することで二酸化炭素排出削減量の見える化を行っており、このハンドブックを有効活用しながら、サステナブルな製品創出にこれからも取り組んでいきます。



フードロス削減に向けた取り組み

(株)バンダイでは、社会的課題であるフードロス問題に向けた対応の一環として、主力菓子商品である「釣りグミ」「トレーグミシリーズ」「ラムネ」「デザート」において各種検証実験を繰り返し、5年にわたる時間をかけて研究を継続した結果、賞味期限の延長を実現しました。さらには生産工程における製品と原材料のロス削減、販売期間延長などに取り組み、従来比で合計10.5tのフードロスを削減しました。



脱石油由来プラスチックへの取り組み

(株)BANDAI SPIRITSでは石油由来プラスチックの使用量を削減し、二酸化炭素排出量を削減するため、プラモデル商品の一部、もしくは全体にリサイクル素材やプラスチック代替素材を使用する取り組みを進めています。産業廃棄物として排出される卵の殻の一部を使用した新素材・卵殻プラスチックや、石灰石を主原料とする新素材などのプラスチック代替素材を、一部のプラモデルに採用し、ファンの皆様が楽しみながら環境配慮の取り組みに触れていただけるような商品開発を行っています。



➡ 適正な商品・サービスの提供

お客様の安心・安全を第一に考え、適正な倫理規範のもと、品質や安全性が確保された商品・サービスをパートナーと一体となって提供し、顧客満足度の向上に努めます。

安心・安全に配慮した商品・サービスの追求

(株)バンダイでは取り扱う商品の特性や幅広いお客様のニーズを考慮し、様々な品質基準を設け、設計や素材の選定を行っています。品質基準は一般社団法人日本玩具協会の定める玩具安全基準(=ST基準)に加え、「安全性」「性能」「表示」の大きく3つのカテゴリーに分かれている約260項目の独自の基準から成り立っており、この品質基準から商品の仕様に応じて必要な基準を抽出して検査し、製品化を行っています。また、ハイターゲット(大人)層向けの商品を展開している(株)BANDAI SPIRITSにおいても同様に、独自の品質基準を設けるとともに、海外への出荷時には、海外グループ会社や外部機関と連携して各国・地域の規制に対応しています。

また、施設においても幅広い年齢層のお客様が安心して安全に施設をお楽しみいただけるよう、施設の設計、安全性検証、点検、従業員教育を行っています。その一例として、アミューズ

メント施設を運営する(株)バンダイナムコアミューズメントでは、お客様に安心して安全に楽しんでいただくために、運用面も含めた様々な観点から業務用アミューズメント筐体・アクティビティ施設の安全性を検証しています。製品開発・改善にあたっては、お客様が手に触れる部分の安全性のほか、施設スタッフがメンテナンスする際の安全性も考慮し、開発、生産、品質保証、サービスなどにおいては、(株)バンダイナムコアミューズメントラボ、(株)バンダイナムコテクニカと連携し安全性検証(セーフティーレビュー)を実施しています。

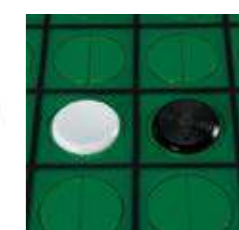


ユニバーサルデザインに向けた取り組み

バンダイナムコグループでは視覚や聴覚に障がいがある方でも楽しんでいただけるようバリアフリーの商品・サービスの提供にも取り組んでいます。

(株)バンダイナムコフィルムワークスでは、映像作品への字幕の表示のほか、作品内の背景や人の動き、表情などを音声で解説する「バリアフリー音声ガイド」を導入しています。

(株)メガハウスの「ルービックキューブユニバーサルデザイン」は、6面の色ごとに凹凸の形状が異なることから、手触りだけでも揃えることができるようになっています(日本おもちゃ大賞2021共遊玩具部門大賞受賞)。また「一体オセロ」については、黒石の面に凸、白石の面に凹があり、触ると石の判別が可能となっており、石も本体に内蔵されているのでなくすこともありません。このように誰もが楽しめる商品開発、ユニバーサルデザインを推進しています。



➡ 適正な商品・サービスの提供

顧客満足向上に向けた取り組み

オンラインゲームにおいては小学生、中学生など未成年のユーザーも増えていますが、それに比例してご家庭でのトラブルも発生しやすくなっており、特に課金に関連する問い合わせが増加しています。そこで2022年12月、(株)バンダイナムコエンターテインメントおよび(株)バンダイナムコオンラインでは、ユーザーの皆様が安心して遊んでいただけるよう、未成年者と保護者に向けた「オンラインゲームあんしんガイド」を公式サイトで公開。未成年者向けには読みやすいように漫画を取り入れるなどの工夫もされ、各ゲーム内でも紹介するなど、幅広いユーザーの皆様にご覧いただいています。なお、バンダイナムコオンラインはHDI-Japanが主催する2022年格付けベンチマーク「問合せ窓口格付け」部門において、最高評価である「三つ星」を獲得しています。



オンラインゲームあんしんガイド

倫理・表現に関する取り組み

バンダイナムコグループは、若者の健全な成長を阻害しないため、またあらゆるステークホルダーへの感情配慮の視点から、倫理表現におけるグループ共通の認識として「バンダイナムコグループ倫理表現方針」を策定しています。グループが提供する商品・サービスにおいて、誤認や誤解のおそれのない正確で分かりやすい表現を心がけるとともに、多様な商品・サービスを扱う企業グループとして、責任ある適切な表現に取り組んでいます。

その取り組みの一例として2019年3月期よりグループサステナビリティ部会の直下に「グループ倫理分科会」を設置。本分科会は事業統括会社の担当者で構成され、倫理表現に関する最新情報の収集のほか、グループの倫理表現に関する案件を検討・提案する役割を担っています。このほかにも、表現の倫理に関する最新情報の共有を目的に、国内グループ各社担当者が

参加する倫理担当座談会を定期的に開催し、グループ各社間の情報共有に努めています。また、グループ各社においても社員に向けた各種勉強会や、従業員向けメールマガジンの配信などを行い、グループ一丸となって取り組んでいます。



グループ倫理分科会(オンライン)の様子

サプライヤーと一体となった取り組み

バンダイナムコグループでは、各国の法令を遵守するとともに、独自の基準を設けるなど、サプライチェーン管理の強化に取り組んでいます。

中国・深圳にあるBANDAI (SHENZHEN) CO., LTD. は、トイホビー事業における生産管理の重要拠点であり、現地サプライヤーの品質管理・品質検査や各種安全性の確認などの業務を担っています。品質保証活動の充実に向けた情報収集・現場への共有を行い、生産品質課題の共有化をはかるとともに、サプライヤーの検査体制の強化や社員教育を推進しています。

また、(株)バンダイナムコフィルムワークスでは、Blu-rayやDVD Discのパッケージアッセンブルを行う工場を対象として、製造工程への立ち会い検査を実施。また、ライブイベント会場にて販売するグッズの製造工場に対しても、自社基準を記載した工場監査チェックリストに基づき、ヒアリング調査や工場環境視察を行っています。



トイホビー事業における生産工場の様子

このほか、(株)アートプレストでは、委託先での生産工程における製品の品質維持、不良品の発生防止を目的に、品質管理体系を共有しています。特に食品包装業務についてはフロー図を用いて図式化による共有を行うとともに、定期的に工場への確認を実施。生産現場における製品の品質管理の徹底、向上に取り組んでいます。

知的財産の適切な活用と保護

重要な経営資源であるIP（キャラクターなどの知的財産）を適切に活用・保護することにより、エンターテインメントの持続的な発展に寄与します。

IP軸戦略の進化に向けた取り組み

バンダイナムコグループは、グループの強みであるIP軸戦略を核とし、世界中のファンとより広く、深く、複雑につながるための新たな取り組み、IP軸戦略の進化、世界の各地域でALL BANDAI NAMCOで一体となり事業構築に取り組むことで持続的な成長を目指します。ファンに寄り添う新しい仕組みとしてIPごとのメタバースの開発や、IP創出のための戦略投資も行い、

商品・サービス発の創出に加え、グループ横断の取り組みによる創出、バンダイナムココンテンツファンドによる創出、外部パートナーとの取り組みによる創出などあらゆる方向からIP創出に取り組むなど、今中期計画の3年間で400億円の戦略投資を行い、IP軸戦略の進化を目指します。

ゲームを活用した社会課題解決への取り組み

(株)バンダイナムコエンターテインメントおよび(株)バンダイナムコスタジオにおいては、2020年から3年間にわたり、青山学院大学総合プロジェクト研究所(知財と社会問題研究所(SSP-IP))と共同で、「ゲームを活用した社会課題解決の可能性の研究」に取り組めました。アクセシビリティの向上やポリティカルコレクトネスへの配慮、ダイバーシティ&インクルージョンの推奨などの実践的な研究に取り組み、シンポジウムの開催や書籍出版など広く社会へ情報を発信しました。



既存IPの保護・活用

バンダイナムコグループの経営資源であるIPの権利を保護することは事業戦略上重要な取り組みとなります。(株)バンダイナムコフィルムワークスにおいては、サンライズブランドの既存IPについて、旧作に関する権利などの再確認を行うとともに、「ガンダムシリーズ」のライセンス強化に伴う権利保全の体制づくりに取り組んでいます。



国内外における知的財産権侵害対策の推進

IPが持つ世界観を守り、お客様に安心・安全な商品・サービスをお届けするため、社外パートナーや行政と緊密に連携して模倣品対策を実施しています。

国内外の市場およびインターネット販売を含むWEBサイトの監視や、税関への輸出入差止申立を適宜行うことで、模倣品の早期発見、流入防止、ならびに排除を行っているほか、国際知的財産保護フォーラムのメンバーとして各国の行政機関・関連団体と連携し、実効性のある対策に努めています。

また、(株)BANDAI SPIRITSでは、模倣品対策の一環としてハイターゲット(大人)層向けコレクターズ商品の統一ブランド「TAMASHII NATIONS」の全商品に、正規品であることを証明

するマークとして、偽造防止加工を施した特殊仕様シールの添付を行っています(一部商品を除く)*。

* 2023年5月以降順次、新仕様のシールデザインに変更



「TAMASHII NATIONS」の商品に貼付している特殊仕様シール

海賊版撲滅に向けた啓発活動

(株)バンダイナムコフィルムワークスは、一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構(CODA)が事務局を務める「マンガ・アニメ海賊版対策協議会」と連携、日本が誇るマンガ・アニメを全世界で守り、さらなる良質な作品を生むプロジェクト「Manga-Anime Guardians Project」(MAGP)に参画しています。その一環として2021年より、(株)バンダイナムコピクチャーズ製作のアニメーション作品「ケロロ軍曹」とNO MORE映画泥棒のコラボレーション動画を制作しています。



ケロロ軍曹×NO MORE映画泥棒の啓発動画の制作に協力

社内における啓発活動

バンダイナムコグループでは、会社ごとに、新入社員や管理職向け研修、事業部門別研修などにおいて、特許・商標セミナーや著作権セミナーなど、知的財産の適切な活用に関するセミナーを開催しているほか、e-learningを活用した全従業員向けのコンプライアンス研修を実施するなど、社内の啓発活動に努めています。

マテリアリティ項目の活動

➡ 尊重しあえる職場環境の実現

従業員をはじめバンダイナムコグループに関わるあらゆる人々が互いを尊重しあい、生き生きと働くことができる職場環境を実現することで、社会と企業の持続的な発展を目指します。

バンダイナムコグループは、「パーパス」のもと、様々な才能、個性、価値観を持つ多様な人材が生き生きと活躍することができる「同魂異才」の企業集団でありたいと考え、中期計画の重点戦略に「人材戦略」を掲げ、様々な分野における多様な人材の育成をはかっています。新卒・キャリア、性別、年齢、国籍、人種、宗教や性的指向などにこだわらず人材の確保・登用を行う

とともに、多様な人材が活躍することができ、心身ともに健康に働くことができる様々な制度や環境の整備に注力します。具体的には、社員のチャレンジを支援する取り組み、グローバルでIP軸戦略を推進する人材を育成する取り組みなどを推進するとともに、多様な人材が実力を発揮できる働きやすい職場環境実現に取り組めます。

働きやすい職場環境実現に向けた取り組み

バンダイナムコグループでは、多様な人材が心身ともに健康に働くための環境整備を推進しています。様々な家庭事情を抱える社員が働きやすい環境を整えるための規定をはじめ、柔軟な働き方を可能にするためのフレックスタイム制、裁量労働制、短時間勤務、時差勤務など、グループ各社がその事業形態に合わせて各種制度を準備。また、定期健康診断やストレスチェックのほか、(株)バンダイナムコホールディングスのグループ管理本部内に長時間労働対策担当を配置しており、社員が安心して

働ける環境をつくることで、従業員満足度の向上をはかっています。なお、(株)バンダイナムコエンターテインメント、(株)バンダイ、(株)バンダイナムコアミューズメントは、次世代育成支援対策推進法に基づき「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けています。また、バンダイナムコエンターテインメント、バンダイ、(株)バンダイナムコビジネスアークは、女性活躍推進法に基づき、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業として「えるぼし認定」を受けています。

働きやすい職場環境実現のための制度の一部(法定以上のもの)

名称	概要
育児休業	満2歳に達する誕生日の前日まで取得可能
育児援助措置	小学校6年生修了までの子を養育する従業員は、時短勤務や時間外労働・深夜労働の免除が利用可能
配偶者出産休暇	配偶者の出産時に5日間の特別有給休暇を取得可能
フレックスタイム制度	所定労働時間を1日ではなく月で定める
育児フレックスタイム制度	小学校6年生修了までの子を養育する従業員は、育児の状況に合わせてコアタイムを変更することが可能
出産・子育て支援金の支給など	第一子、第二子の誕生時に、それぞれ20万円支給 第三子以降の誕生時に、子1人当たり300万円支給* *支給には、連続した1週間以上の育児休業取得と子育てレポートの提出が要件
ライフサポート規定	様々な家庭事情を抱える従業員にとって働きやすい環境を整備することを目的として導入 事由に応じて、30日の休暇取得または時短勤務・フレックス勤務が可能 事由例)①子の不登校 ②不妊治療 ③家族(2親等以内)の看護および介護 ④疾病での通院
パートナーシップ制度	パートナーシップ関係において、社内規定に定める休暇、福利厚生等の会社が認めたものに関し、法律上の婚姻に準ずるものとして取り扱う

注：各社によって導入している制度は異なります。

グループサテライトオフィス YU-PORT の運用

バンダイナムコグループでは、各拠点のオフィスの一部を、グループ社員が自由に使えるサテライトオフィスとして開放しています。これによりグループ会社間における交流を活性化し、連携を強化することを目指しています。



グループサテライトオフィス YU-PORT

チャレンジする人材を支援する取り組み

バンダイナムコグループの主要会社では、各社の営業利益と従業員の利益分配金が相関する業績連動の報酬体系を導入し、従業員のチャレンジ意欲を喚起しています。また、各ユニット・各社においてIPや商品・サービスに関するアイデア提案制

度などを設け、会社や部門の垣根を越えて、従業員が自ら提案できる仕組みを構築しています。さらに、チャレンジした部門や従業員を表彰する制度の導入などにより、チャレンジしやすい土壌・風土づくりに取り組んでいます。

● BANDAI NAMCO アワード

バンダイナムコグループでは毎年、「BANDAI NAMCO アワード」と題して、その年に最も輝いたチームを表彰しています。審査にあたっては、コンテンツなどのヒットの状況、クリエイティブ性、話題性、サステナビリティへの取り組みなどが重要なポイントとなっています。



多様な人材が活躍できるための取り組み

バンダイナムコグループでは従業員一人ひとりが持つ才能、個性を重視しており、事業の特性に応じて多様化をはかっています。女性活躍の推進においては、実力と経験により公正な評価を実施しており、女性正社員数の増加に応じて女性管理職も増え続けています。また、事業のグローバル化に伴い、現地採用の従業員数も年々増加しています。

さらに障がい者の雇用促進のため様々な施策に取り組んでいます。特例子会社(株)バンダイナムコウィルでは、オフィス管理や玩具・ゲーム開発サポートなど、グループのビジネスを様々な面からサポートしています。また、国内グループ会社向けに、障がいを正しく知るサイト「ゆになび」の開設、主要会社における障がいのある社員のインターンシップなども実施し、障がいへの理解向上を目指しています。

人材育成に向けた取り組み

バンダイナムコグループにおいては「パーパス」のもと、地域やユニットの壁を超え、グループが一体となって事業に取り組む ALL BANDAI NAMCO による一体感醸成とグローバルで活躍する人材の育成を重要視しています。

役職や年次の節目にはユニットや地域をまたいだグループ横断研修を実施し、グループ間のつながりや新たな気づきの機会

を提供しています。並行して事業特性に応じた専門的分野については、ユニットや個社での育成と二軸で取り組んでいます。また、事業やユニット、地域をまたぐ人事異動を活発に行っており、グループが展開する各事業に対する理解を含め、グループの核となる人材の育成に取り組んでいます。

グループ横断研修実績

グループ合同研修	研修概要
1年目研修	グループ同期との関わりを通じチームでの成果発揮やグループの意義について考える
5年目研修	パーパスを通じ自身の仕事の意義とキャリアについて考える
新任マネージャー研修	マネージャーとして組織を牽引するためのスキル強化と自チームビジョンの設定
グローバル次期経営者研修	将来グループを担うと期待される人材の意識付けと人脈構築
役員研修	会社の経営を行ううえで必要なマネジメント知識の習得

注：上記のほかに個社ごとの人材育成プログラムを実施しています。

2023年3月期については新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受け1年目研修は実施していません。

マテリアリティ項目の活動

➡ 尊重しあえる職場環境の実現

エンゲージメント向上に向けた取り組み

● エンゲージメントサーベイの実施

国内外グループ全社において2023年3月期よりエンゲージメントサーベイを実施しています。以降毎年の観測を実施しグループ

全体で社員のエンゲージメント向上に取り組み、多様で個性あふれる人材が生き生きと働き活躍できる環境づくりを推進しています。

● ファミリーイベントの開催

バンダイナムコグループ各社において、従業員同士や、日頃から従業員を応援し支えている家族との交流をはかる「ファミリーイベント」を実施しています。その中でも「“いいもの”をつくり続ける」ことをミッションとし、バンダイナムコグループにおいてIP創出の強化を目指すIPプロデュースユニットでは、2023年3月期にユニット横断イベントとして「秋の文化祭」を開催。コロナ禍を考慮したオンライン開催に加え、社員の家族を本社社屋に招待した職場見学ツアーも同時開催しました。当日はトレス体験やキャラクターピンゴなど自社IPやアニメーション制作について楽しく学び、家族や同僚とのコミュニケーションが深まるイベントとなりました。バンダイナムコグループはこれからも社員やその家族をはじめとしたステークホルダーとともに楽しめるコミュニケーション施策に取り組んでいきます。



職場見学ツアーの様子

サプライチェーン全体での人権の取り組み

バンダイナムコグループは事業活動において、潜在的な人権への影響があることを認識しています。バンダイナムコグループは従業員とその家族はもちろん、お取引先様など、すべてのステークホルダーの人権を尊重する責任があるという考えのもと、

サプライチェーン全体で人権への理解を促進し、人権への負の影響の軽減と、すでに確認されている人権課題の解決に向けた取り組みを進めます。同時に、グループ全体で人権意識の向上に努め、人権尊重に向けた取り組みを推進していきます。

● 人権デューデリジェンスの実施

バンダイナムコグループは、事業における人権リスクを評価・特定するため、グループの主要事業を対象に人権デューデリジェンスを実施、地域リスクおよび事業リスクから今後重点的

にリスク発生の防止に取り組んでいく地域および事業を特定しました。2024年3月期以降は特定された事業を優先的に取り組んでいきます。

● サプライチェーンにおける取り組み

(株)バンダイでは、バンダイ製品を生産する海外最終梱包工場(2023年3月期は177工場)に対して、「品質監査」と「COC (Code of Conduct: 行動規範) 監査」を一元化した「BANDAI Factory Audit (BFA)」を実施しています。「BFA」は、8つの基準(「強制労働」「児童労働」「労働時間」「賃金及び手当」「懲罰」「差別」「環境保護」「製造国に由来」)の遵守を宣言した「バンダイCOC宣言」を基本方針とし、独自の「BFAマニュアル」に基づき、監査を行っています。なお、「バンダイCOC宣言」や管理マニュアルなどは、日本語、英語、中国語

で制作し、生産パートナー企業向けホームページにも掲載し、逐次最新状況の理解・浸透をはかっています。

さらに、(株)バンダイナムココミュニティでは、サプライヤーとの取引開始時に実施する「CSR調達アンケート」の項目に「人権(強制労働・差別・ハラスメントの禁止など)」を設け、違法行為がないことを確認したサプライヤーとのみ取引を行っています。

● 社内啓発活動

グループにおける人権対応強化のためには経営者層の理解が重要と考え、(株)バンダイナムコホールディングスの取締役を対象に、人権に関する勉強会を実施しています。また、従業員に対しても、サステナビリティ、ワークライフバランス、LGBTQや障がいなどをテーマにしたセミナーやe-learningを行い、グループにおけるサステナビリティ文化の醸成、従業員の意識向上に取り組んでいます。



経営者層向け人権セミナーの様子

COLUMN

データで見るバンダイナムコグループの職場環境(2023年3月期)

注：以下実績については国内主要グループ会社の原籍従業員を集計対象としており、2023年3月期における従業員カバー率は32.9%です。
国内主要グループ会社：(株)バンダイナムコエンターテインメント、(株)バンダイ、(株)BANDAI SPIRITS、(株)バンダイナムコフィルムワークス、(株)バンダイナムコミュージック

働きやすい職場環境の実現

男女の育児休暇取得率*

男性：28.4% 女性：100.0%

*2023年3月期中に育児休暇取得実績がある

男女の育児休暇復職率

99.0%

有給休暇取得率

70.1%

健康診断受診率

99.9%

ストレスチェック受検率

97.9%

人材育成に向けた取り組み

グループ合同研修の参加者数

201人

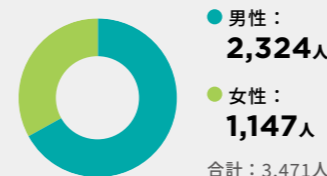
事業統括会社間の異動者数*

39人

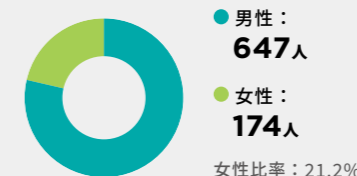
*会社内の部門間異動者は除く

多様な人材の活躍

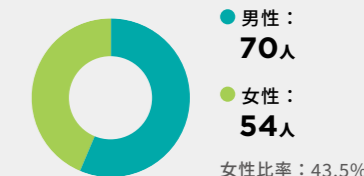
正社員数男女比



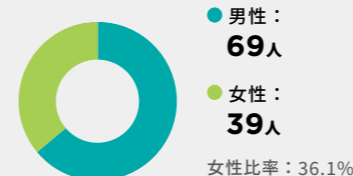
管理職数男女比



新卒採用数男女比*1



中途採用男女比



障がい者雇用率*2

2.27%
(2022年3月期採用人数：182人
2023年3月期採用人数：191人)

*1 2022年4月入社

*2 特例子会社(株)バンダイナムコフィルムの適用会社である連結子会社が対象

👉 コミュニティとの共生

バンダイナムコグループが地域やファンから愛され、社会から必要とされる企業であり続けるために、コミュニティとともに生き、発展していくことを目指します。

地域拠点への取り組み

バンダイナムコグループは地域社会の一員として、地域に密着した社会活動に取り組むとともに、IPを活用し、地域経済の活性化にも取り組んでいます。

(株)バンダイナムコフィルムワークスでは、拠点を置く東京都杉並区と連携し、「アニメのまち杉並」としての地域活性・アニメ文化の発展に貢献しています。また2021年8月より全国の自治体と協力し、「ガンダムマンホールプロジェクト」をスタート。同プロジェクトは「機動戦士ガンダム」に登場するキャラクターやモビルスーツなどがデザインされたマンホール蓋「ガンダムマンホール」を全国の様々な場所へ設置する取り組みであり、地方自治体と協力し、国内の活性化をはかるとともに、世代を超えたガンダムファンの皆様とガンダムとの絆の証にしていきたいと考えています。



北米地域では、拠点所在地であるカリフォルニア州の地元球団ロサンゼルス・エンゼルスとスポンサーシップ契約を締結しています。バンダイナムコのロゴマークやバックマンがデザインされた看板をスタジアムに掲出しているほか、インニング間でのゲーム開催やエンゼルスラジオ番組やSNSでバンダイナムコの情報を配信するなど、多彩な演出でファンと球場を盛り上げています。

中国では、Bandai Namco Holdings China Co., Ltd.は中国の無形文化遺産である「古籍修復(古書の修復)」の体験イベントを実施。また、障がいがあったり、貧困に悩む子どもたちと「夢・遊び・感動」でつながることを目的として2023年3月より「未来への夢づくり」プロジェクトをスタートしました。

次世代への取り組み・コミュニティ支援

(株)バンダイでは、日本、世界、エジソン、ホビー(ガンダム)という個性豊かな4つのテーマミュージアムで構成された、子どもから大人まで楽しめる、「おもちゃのまちバンダイミュージアム」を栃木県壬生町で運営しています。

また、「未来を担う子どもたちに向けた教育・体験価値の提供」として、2023年3月「トーマス・エジソン特別展」をバンダイ本社に開設しました。公益財団法人バンダイコレクション財団が栃木県壬生町で運営している「エジソンミュージアム」の收藏品の中から、実際に動かすことができる蓄音器・白熱電球・トースターなどをアメリカ・オハイオ州のエジソンの生家の一部をイメージしたブースに展示し、エジソンの生涯や名言などとともにご紹介しています。これらの取り組みは次世代を担う子どもたちの交流、学習、レクリエーション

の一助となることで、子どもたちの心身の健全な育成と豊かな発想の増進に寄与することを目的としています。

(株)バンダイナムコエンターテインメントが運営に参画するプロバスケットボールチーム「島根スサノオマジック」では、選手が島根県内の幼稚園、保育園、小学校を訪問し、バスケットボール教室のほか、子どもたちと将来の夢について語り合う「夢授業*」の活動を行っています。

また、(株)キャラ研においては、絵本キャラクター「くまのがっこう」のジャッキーが日本各地の幼稚園・保育園を訪問し、子どもたちに“しあわせ”を届ける活動「ジャッキーキャラバン」を実施しています。

* 2020年、2021年はコロナ禍のため、オンラインによる動画配信



トーマス・エジソン特別展



島根スサノオマジック「夢授業」



ジャッキーキャラバン

被災地支援の取り組み

(株)バンダイナムコホールディングスは、2011年より公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携により、日本国内の子どもたちに向けた活動や従業員向けセミナーを実施しています。また、株主優待を活用して、株主様とともにセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへ毎年合計1,000万円の寄付を行っています。寄付金は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが実施する日本国内の子どもたちへの支援活動に充当されます。

9月に一般社団法人災害防止研究所が主催する「防災グッズ大賞 2022」にて「審査員特別賞」を受賞しました。

(株)バンダイナムコミュージックライブでは、アーティストの公演会場や配信ライブで販売するチャリティーグッズの売上金の一部を、震災や豪雨などで被災した地域に、日本赤十字社を通じて義援金として寄付するなどの取り組みを行っています。

(株)バンダイは、災害の現場における子どもの不安やストレスの軽減に向けて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの協力のもと、心のケアを目的としたバンダイ災害時子ども支援おもちゃを企画・製造しました。慣れない避難生活の中で子どもに寄り添い、安らぎを与えてくれる「話し相手」「仲間」となるよう企画されたもので、セーブ・ザ・チルドレンが災害発生時に支援品として現地に届ける「緊急子ども用キット」に同梱して被災地へお届けする予定です。なおおもちゃは2022年



セーブ・ザ・チルドレンによる支援活動